

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1292100102		
法人名	メディカル・ケア・サービス株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム 習志野奏の杜		
所在地	習志野市谷津7-12-45		
自己評価作成日	平成29年12月20日	評価結果市町村受理日	平成30年3月22日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人ヒューマン・ネットワーク		
所在地	千葉県船橋市丸山2-10-15		
訪問調査日	平成30年1月18日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

JR津田沼駅から、徒歩6分の場所にあり、ご家族様や地域の方々、気軽にお越しになれる環境にあります。近隣には、公園や、ショッピングモールもあり、天気の良い日は、ご利用者様と、お散歩やお買い物に出かける事もございます。ホームでは、食レク、外出レク、ボランティアによる訪問もあり、日々の生活に、うるおいを与える活動を心がけております。ご利用者様、お一人お一人が、第二の我が家としてお過ごし頂ける様、おもいに寄り添い、その人らしい希望ある生活を、スタッフ一同目指しています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1)全職員で話し合い「おもしろい」に寄り添い、その人らしい、希望のある生活を目指す」を理念とした。人生の先輩として敬意を払い傾聴をこころがけ、一人ひとりの入居者の気持ちを汲み取ることを大切に、第2の我が家として過ごして頂けるような支援を目指し取組んでいる。2) 食事を楽しんでいただくことに力を入れ、毎月の食事レクではおでんやお好み焼き、寿司など入居者の好きなメニューを提供し、季節ごとに家族参加の流しそめんなどを企画して楽しい食事につなげている。3) 広くゆったりと過ごせるリビングでは、毎月のようにボランティアによる歌や演奏、手品の披露などが行われ日々の生活に潤いを与えるようにしている。

## ・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Alt+-) + (Enter+-)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	<p>理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>理念をホームにも掲示し、事業所全体でも共有している。また毎日の申し送り時は、理念を唱和し、スタッフ全員で共有している。</p>	<p>ホームとして一番取り組みたいことを全職員で話し合い、昨年6月に「'おもい'に寄り添い、その人らしい、希望のある生活を目指す」との理念を創った。毎日の申し送り時に法人理念と共に唱和し共有を図り、一人ひとりの入居者の気持ちを汲み取ることを大切に希望のある生活に繋がられる支援に取り組んでいる。</p>	
2	(2)	<p>事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>地域のボランティアの方々にはホームに来訪して頂き様々な交流の機会を設けている。今後も、地域交流に場を、広げて行きたい。</p>	<p>社協やコミュニティーセンターを通して紹介頂いた手品ショー、ハーモニカ、落語や小演劇等のボランティアが毎月来訪している。日常の公園の散歩等を通して一緒にソージをする等社会とのつながりが途切れないようにしている。</p>	<p>近隣の保育園や小学校との交流等も模索しているとのことであり、自治会加入も含めて地域との交流を更に増やしていくことを期待したい。</p>
3		<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>介護相談員の受け入れも行っており、今後も地域の方々のご協力を頂きながら、活動して行きたい。</p>		
4	(3)	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>ご家族、地域包括、介護相談員等の出席により、2か月に1度、定期的で開催している。多くの意見、ご指導を頂きながら、サービス向上に活かしている。</p>	<p>年間開催計画を立て、地域包括支援センター職員、介護相談員や家族が参加して2ヶ月に一度定期的に開催している。ホーム内人事、入居者状況、活動報告・事故報告等を議題とし、また、新たな運営理念と趣旨の説明も行い、今後取り組んでいく支援についても話し合い意見交換を行っている。</p>	
5	(4)	<p>市町村との連携</p> <p>市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>習志野市介護保険課・高齢者福祉課と日頃から連携をとり、より協力関係を強化して行くよう取り組んでいる。</p>	<p>市の介護保険課・高齢者福祉課職員とはメールも含め気軽に相談をし助言を頂ける間柄である。地域包括支援センターには月に何回か訪問し、市の高齢者メモリーウォーク開催の件等も含め良く連携を取っている。</p>	
6	(5)	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>3か月に1度、身体拘束のケアについて研修を行い、スタッフ全員が正しく理解できる様周知し、取り組んでいる。チェックシートを配布し、常に現状について確認、している。</p>	<p>「高齢者虐待と身体拘束「ゼロ」に向けての取組」の研修を3ヶ月に一度視点を変えて実施し、職員の理解を高めている。また、法人独自の虐待不適切ケア・身体拘束チェックシートを2ヶ月に一度全職員が記入し常に現状について確認すると共に職員同士で互いに注意し合えるようにしている。</p>	
7		<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>身体拘束を行わないケア同様、虐待防止の研修も実施し、スタッフの理解を深め防止に務めている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している入居者様も何名かおられる事から、ホーム全体で研修を行い、学ぶ機会を設けている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時の契約に関しては、詳しく説明しご本人・ご家族様の不安や疑問点について、十分な説明を行い、理解・納得を頂いている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関カウンターに意見箱を設置、ご家族様からのご意見を頂く機会を作っている。また、運営推進会議やご家族様が参加できるイベント等、機会を多く持ち、運営に反映している。	写真、今月の様子、ケアプラン、健康医療面、入浴状況等を判り易く工夫した「習志野奏の杜通信」を献立表と共に毎月家族に送付し家族からも大変喜ばれている。流しソーメンや七夕会、敬老会等家族参加のイベントを多く実施し家族との信頼関係を築くと共に、面会時も含め家族から意見や要望を多く言って頂き、適時対応するようにしている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフとの面談を3か月に1度は、ユニットリーダー・ホーム長で設けている。個々の意見や提案について、ユニットリーダーを交えてユニット毎に、しっかり運営に反映される様にしている。	職員とユニットリーダー又はホーム長との面談を3ヶ月に一度定期的に行っている。人間関係や悩みなども含め職員が話せる機会を多くし、職員からの意見や要望、提案についてはユニットリーダーとホーム長が話し合い、運営に反映させるようにしている。「おもいに寄り添い、その人らしい…」との運営理念を実践するため認知症理解向上を図るための研修を3回実施している。また、職員の身体への負担軽減も考え、介護技術スキル向上の講習を実施している。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	面談や一緒に勤務する中で、コミュニケーションをより多くとっている。向上心を持って働ける様、職場環境・条件の整備に努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会社の資格支援制度等、スタッフに積極的に働きかけていると共に、外部研修を受ける機会を設ける等、積極的に支援している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市主催に介護サービス事業者の連絡会等、出来るだけ参加し、他事業者との交流を図り、サービスの質の向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入居前には、ご自宅や前施設等に伺い、ケアマネとアセスメントを行う事で、ご本人・ご家族様の意向・要望を伺っている。ご本人様が、不安なく生活して頂ける様スタッフとも事前に検討している。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご入居前には、ご家族様ときちんと向き合い、現状の問題点や要望をしっかりと把握し、ご希望に沿ったサービスが出来る様、努める。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス担当者会議を開催し、支援内容について話し合い、本当に必要としている支援の実現に努めている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人のおもいに寄り添い、ホームでその人らしく暮らしていける支援を目指し信頼関係が築ける様心がけている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様がホームに訪問された時は、ご本人様の近況をお伝えし、お話をする機会を設け、共に支えて行く関係を築いている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人・知人・御親戚が来訪された時は、楽しく過ごせる環境づくりを行っている。お電話の取次ぎ等も、ご本人様に良い環境でお話をして頂いている。	元の住まいの近所の人、仕事仲間や学生時代の友人、関西からひ孫さんが訪ねて来た時は楽しく過ごせていただける環境作りをしている。毎週家族と自宅で昼食をする方、年末年始自宅に泊まる方、家族と馴染みの美容院や床屋、お墓参りや喫茶店でお茶をする方等馴染みの関係が途切れないよう、その時々支援の仕方などを家族にお伝えする支援をしている。電話の取り次ぎや手紙のやり取りなどの支援も行っている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様同士の関係を大切に考え、スタッフは常に見守り、支援している。時には口論等もあるが、スタッフが仲裁に入るなどして、その場を和ませる様、支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設に入所された方の近況を伺ったり、面会をしている。ご家族様との交流もあり、現在もボランティアとして来ていただいている。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で、スタッフがこまめにご本人のお話を聞き、記録として残している。ご家族様やケアマネを交え、ご本人本位のプラン作りに努めている。	おやつや散歩などのリラックスした時間を利用して、入居者の気持ちや思いの把握に努めている。また、入居者同士の会話の中から興味や関心のあること、思い出話などの情報を収集し、その会話の内容や表情などをその都度、介護記録に記載している。毎月のユニット会議では入居者個々のアセスメントを行い、楽しく希望のある生活を目標としたケアプラン作成につなげている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人・ご家族様、入居前のケアマネ、施設等から情報を頂き、共有している。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録や申し送り等、ご本人様の情報や日々の暮らしをスタッフがしっかり把握する様、努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・ご家族様、往診医、訪看等、情報共有し、事前アセスメントやモニタリングに基づいて介護計画を作成している。また、意見をより多く支援に反映する様努めている。	3ヶ月毎にモニタリング、ケアプランの見直しを行っている。ユニット会議でサービス内容の実施状況や支援方法について職員が意見を出し合い、排泄や入浴支援方法の変更などの個々のプランの見直しを行っている。家族の面会時を利用して入居者の様子や支援方法を見学してもらい、直接、家族の意向を把握している。また、毎月の家族向けの「通信」には、居室担当者、ケアマネジャーが記載した「今月の様子」や「ケアプランについて」が詳細に報告され、家族がケアプランについて意見を出しやすい工夫を図っている。	職員がケアプランを常に意識して支援できるように、短期目標、サービス内容のケアプランを介護記録に添付する等の工夫が望まれる。また、現在のケアマネジャー主体のモニタリングから、職員参加のモニタリング実施のための新たな取り組みにも期待したい。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録や、申し送り等、あらゆる情報の共有と、スタッフの意見を反映し介護計画の見直しに活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人・ご家族様の状況やニーズに対応して、ご本人様の意向を受け、柔軟なサービスが提供できる様、支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアをお願いし、ホーム内で行事を行ったり、近隣の公園にお散歩に行く等、ご本人様の状態に合わせて楽しめるよう支援している。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームの往診医、入居前からのかかりつけ医と連携をとり、適切な医療が受けられる様支援している。	月2回の往診時には、個人情報やプライバシー保護に配慮し、各居室で対応している。事前に「往診記録」に皮膚症状などの気になる点を質問事項に記載し、確実な受診につなげている。また、同席した職員は診療内容を記録し、申し送り表、介護記録に転記して職員間の情報共有を図っている。症状の大きな変化や検査値異常の際は、その都度、家族に連絡し、毎月の「通信」でも往診情報や訪問看護情報、健康状態を報告している。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪看との連絡は、日々の記録等を用いて詳細に報告。週1回の受診時に、適切な支援が受けられるよう支援している。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の情報提供を行い、病院関係者との情報交換に努めている。ご本人・ご家族様が不安なく治療でき退院できる様、退院時のカンファレンスに同席し、退院後の生活が円滑に出来る様、情報・指導頂いている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化については、入居時にご家族様の意向を文書で確認している。ホームでの対応は、ご家族様・主治医・ホームとの連携を密にし、チームケアを行い、支援していく。	重度化した際の指針や看取りに関する指針は入居時に本人、家族に説明し同意を得ている。家族から看取りに向けた相談があった際は、主治医、看護師、ケアマネジャーを交えて対応を検討している。その際、ホームでできることや看取り体制、家族の協力の必要性などを丁寧に説明し、家族の意向を確認しながら対応している。看取りに対する研修を毎年実施し、いつでも対応可能な体制が整備されている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変・事故発生時のマニュアルは整備されている。夜間の主治医・管理者への連絡対応は、確立されている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を行っている。内1回は夜間想定での訓練を行っている。災害時用の水・食料・備品も備えている。	「消防計画」に基づき日中、夜間火災想定での避難訓練を年2回実施している。日中火災想定での訓練では、初期消火、通報、応援、避難誘導の役割分担による訓練を行い、夜間火災想定での訓練では、出火フロアの夜勤者と非出火フロアの夜勤者による役割分担による実践的な訓練を実施している。訓練後の反省会では、訓練で気づいた誘導方法や点呼確認などの課題を抽出し対策を図っている。飲料水、食料品などの備蓄品はスタッフルームで管理し、定期的に賞味期限を確認し補充、交換を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様一人一人の尊厳とプライバシーを重視し、敬意を持って対応している。ホーム内でも研修を行い、スタッフで確認をしている。	入居者の「おもいに寄り添い、その人らしい希望ある生活を目指す」との理念を大切に支援を心がけている。人生の先輩に対して敬意を払い傾聴をこころがけ、馴れ馴れしすぎる言葉づかいには会議や研修、現場で特に周知徹底している。その日の気分の動きに注意を払い気持ちの落ち着いた時に声かけや手伝いをお願いする等、入居者個々の個性に合わせた対応に努めている。出来る範囲の選択できる声かけを根気強く行い、本人のペースに合わせて何が出来るかを常に考えて支援している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の状態に合わせた声掛け対応を行い、ご本人の思いや希望を汲み取りその方らしい生活が送れる様、支援している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の生活を大切に考え、出来る限りご希望に添える様、常に傾聴を心がけ支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者様の状態に合わせ、起床時の整容・外出時の着替え等を支援。洋服選びもご本人に伺い決定し、清潔感やご本人の意向を大切にしている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の取り分けや片付け等、出来る所は一緒に行っている。一人一人の状態に合わせた関わりに配慮し、声掛けを行っている。	調理スタッフにより、厨房で調理したばかりの温かい料理が提供されている。入居者同士の相性を考えた座席の配置や入居者のペースに合わせてゆっくり食事を楽しむための配慮が図られている。惣菜の取り分けや下膳、食器洗い、食器拭きなど入居者の力に応じて手伝っている。入居者が献立を掲示板に記入するなど食事への関心を高める取り組みがみられる。毎月の食事レクではおでんやお好み焼き、寿司など入居者の好きなメニューを提供し、季節ごとに家族参加の流しそうめんなどを企画して楽しい食事につなげている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士によるカロリー計算されたメニューを基本とした献立を提供。ご本人の摂取量・水分量を記録し、健康状態を把握、支援している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを行っている。一人一人の状態に合わせて、支援を行い清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を確認しながら、一人一人の状態に合わせ、自立に向けた支援を行っている。	排泄の支援方法については職員間で統一を図り、ケアプランで定期的に見直しを行い、出来る限りトイレでの排泄にこだわった支援が図られている。車イス対応の広いスペースの3ヵ所のトイレには、つかまりやすい位置に手すりや便座の背もたれ、可動式手すりが設置され安心して排泄できるように配慮されている。健康管理表の排泄表を活用し、入居者個々のパターンを把握して、少し早目の声かけにより失禁回数の減少につなげている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量の確認、食事やおやつの工夫、運動やお散歩の実施等、個々に対応している。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴のお声かけは、ご本人の意向を伺ってから入浴して頂いている。入浴予定者は、大まかには決まっているが、ご本人の意向を優先して支援している。	入居者のADLやその日の状態を考慮しながら、午前、午後の好きな時間帯に週2～3回の入浴を楽しんでいる。ケア日報や入浴表で入浴間隔を把握し、入浴を拒否する方には入浴日をカレンダーに記入して入浴を誘うなど、性格を考慮した工夫が行われている。また、無理強いせずにシャワー浴や清拭などの柔軟な対応も行っている。見守りを徹底して安全な入浴をこころがけ、皮膚状態などの身体の観察や軟膏塗布、整容などの支援も入浴時に行っている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間、安眠につながる様、日中の過ごし方について、個々の状態にあわせて支援している。ご本人の生活リズムを大切にして支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬表を確認、毎回スタッフ2名で氏名、日付、個数を確認。服薬支援している。また薬の変更等があった時は、申し送りや日誌に記録し、スタッフ全員で情報を共有している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の意向、楽しみ、生活歴を理解し、楽しく充実した生活が送れる様、支援している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々の日課として、お散歩やお買い物等近隣に出掛けている。外出レク等で季節を感じられる様、多く取り入れて支援をしている。	天気の良い日は、午前、午後に交代でホームの周辺や公園に散歩に出かけ、気分転換や季節感を味わっている。近くのスーパーへの日用品の買い物やおやつ材料買いに出かける入居者もみられる。谷津バラ園や近隣の神社への初詣、桜見物などの外出レクレーションを季節ごとに楽しんでいる。また、法人の合同合唱コンクールや運動会にも多くの利用者が参加し他の事業所の高齢者との交流を図っている。家族と一緒に夕食や自宅での外泊、墓参りなど家族の協力による外出支援も行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の希望を伺いながら、一緒におこづかいで、お買い物に行ったり、必要な物の購入等の支援を行っている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を掛けたり、取次ぎの支援を行っている。手紙等のやり取りも同様に、支援している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活感、季節感が感じられる掲示物や、レクやイベントの写真の掲示を行うことで、会話も弾み、楽しい空間作りが出来ている。スタッフ同士、意見を出し合い、より居心地の良い空間づくりの工夫をしている。	節分や花見、パラ園見学などの季節ごとのイベント時の写真を掲示し、季節感を常に感じてもらえるように配慮している。また、生活感を味わってもらえるように、習字やちぎり絵、ぬり絵などの入居者の作品を廊下に掲示している。トマトやキュウリなどの野菜や季節の花が施設内の畑や庭園で入居者により栽培され、季節感と癒しの空間づくりが行われている。玄関、フロア、トイレなどの清掃や次亜塩素酸による消毒に力を入れ、清潔感溢れる共有空間づくりを図っている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアには、ソファ等もおいて、思い思いの合う人と団らん出来る空間づくりに努め、支援している。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた家具や趣味の物、写真アルバム等お持ち頂き、ご本人が居心地良く安心して過ごして頂ける様、ご家族様とも相談しながら、支援を行っている。	使い慣れたテーブルや椅子が持ち込まれ、家族の面会時には居室でお茶を一緒に飲み会話を楽しんでいる。また、アルバムや家族の写真の持込みを家族に依頼し、家族との関係維持を大切にした居室づくりが行われている。衣替え時には家族の協力を得て、布団や衣服の交換を行い、生活感や季節感を大切にした支援を図っている。車イス、片麻痺などの入居者の状態に合わせて、動線を考慮した家具の配置の支援を行っている。また、早番の職員が居室の掃除や換気を行い、清潔で明るい居室づくりを支援している。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共有部分のキッチンを含め、リビングが広く見渡せる空間となっている。いつでも見守りをしながら、安心、安全な自立した生活が送れる様支援している。		